

県北 どらくろあ

第113号 2025年8月1日（毎月1日発行）

中国5県絶景の旅⑥

「広島県尾道市・潮聲山耕三寺」

——宗教アートのテーマパーク

6月16日月曜日、吉備津神社を参拝した翌日である。雨が降ってれば、またの機会にしようと思っていた。時期的には梅雨の真っ最中なので、雨の確率の方が高いと思っていたが、空を見上げると曇天、行くべし！

山陽自動車道の吉備スマートインターチェンジより高速

に入った。サービスエリアに隣接した簡易な無人ゲートで、ETC装備車両だけ利用できる。山陽自動車道を福山西インターチェンジで降りて、国道2号線を5キロ走って、西瀬戸道インターチェンジからしまなみ海道に入った。

絶景の旅の初回で、島根県の日御碕灯台を訪問、日本海の水平線を眺望した。今回の広島の旅では、



日光東照宮の陽明門を参考にした耕三寺・孝養門



世界最大級の大理石庭園「未来心の丘」

瀬戸内海を訪れてみたい。脳裏に浮かんだのは、日本画家の平山郁夫の絵である。「出雲路古代幻想」シリーズで、日御碕や日御碕神社を描いている。そして、「しまなみ海道五十三次」と題して、60点の水彩画を残している。しまなみ海道の生口（いくち）島は平山郁夫の生誕地であり、平山郁夫美術館がある。

生口島の情報を収集していたときに出てきた耕三寺の名前に、聞き覚えがあった。福山市内の小学校にいたときに、遠足で訪れたこの道は開通していないので、バスや

フェリーを使つての遠足だったのだろう。

新尾道大橋で向島に渡り、因島大橋で因島に入る。海峡の景観は素晴らしいが、潮風が強くて橋が揺れている。軽自動車の車体が吹き飛ばされそうな恐怖を覚える。実際、強風で車両が横転するとう事故も起きていて、風速25メートル以上の強風が予測されるときは通行止めになっている。

生口橋を渡り、生口島北インターチェンジで高速道路を降りた。ちなみに、次の大三島は四国・愛媛県である。岡山を10時頃出発したのだが、ここまで1時間半もかかっていない。

まずは砂浜を散策してみたい

……。海岸沿いの県道81号線を走って、サンセットビーチの中の駐車場に車を停めた。この砂浜から大三島を望む景色を平山郁夫が描いている。画伯の絵は夕陽に染まっている。砂浜の防風林は、巨大な蘇鉄だろうか？ 南国の景色である。

気温は30度近くで真夏の陽気だが、まだ海開きをしていない海水浴場は人影もまばら。白い砂浜を裸足で歩くと足裏が熱いので、早々に引き揚げた。

県道81号線を3分の1程戻った所に耕三寺がある。すぐそばの有料駐車場に車を停めたが、あとで近くに無料の駐車場があることに

気づいた。耕三寺のパンフレットには無料の駐車場しか載っていないので、私設の駐車場のコバンザメ商法か。観光地アルアルである。

入館料は1400円。孝養門の細密な装飾に、「西の日光」という呼称を思い出した。遠足の時に、引率の先生がそう説明してくれた。日光東照宮陽明門を模している。60年近くの歳月を経て、さすがに朱色の塗装はかなくなりすんでいたが、そのイメージは鮮明に残っている。この孝養門を含めた堂塔等の15棟が、国登録有形文化財に指定されている。

耕三寺は、大阪で大口径特殊鋼管の製造会社を営んでいた技術者で実



丘の頂からは瀬戸内の島々が眺望できる



「千佛洞地獄峡」には富士山の溶岩を使用

活躍する彫刻家・杭谷一東氏に設計・制作を依頼。5000平方メートル余りの敷地に約3000トンの大理石を使っていて、氏のアトリエがあるイタリア・カッラーラで採掘し、コンテナ船で運搬、大理石庭園としては世界最大級。その一つひとつのモニュメントが仏教的な意味合いを持っているそうなのだ。わたしのイメージはギリシャ神話の世界である。白亜の“神殿”の頂きに立つと、瀬戸内の島々の絶景が広

業家の金本福松が母親ヤツの死後、母の菩提寺として建立した。そのために浄土真宗本願寺派で得度し「耕三」の法名を拝受、耕三寺の住職となつてからは、耕三寺耕三を名乗るようになる。昭和10年に耕三寺造営を発願、昭和45年に78歳で亡くなるまで、耕三寺の建立に尽力した。

施設は地下にもある。「千佛洞地獄峡」、地下約15メートル、全長350メートルの隧道（洞窟）。富士山の溶岩と浅間山の焼石を使用しているという。広い洞室もあり、仏諸尊千体の石仏を奉安。隧道の内部は薄暗くてヒンヤリ、地獄の冥道をさまよっているような雰囲気だが、仏様が見

守ってくださるので安心だ。

隧道を通り抜けると、「救世観音大尊像」のそばに出る。奈良・法隆寺夢殿の御本尊、秘仏救世観音を模しているが、像高だけで10メートル、台座などを加えた総高は15メートルにもなる大露仏。

そして、寺院の奥に「未来心（みらいしん）の丘」がある。耕三寺は、「耕三寺博物館」として国の登録博物館に登録されていて、寺院の全域を公開している。その博物館の芸術家支援活動の象徴として、2000年にオープンしたのが未来心の丘なのである。

広島の世羅町出身で、イタリアで

がっている。

梅雨時期の平日にもかかわらず、来館者の数は多かった。インバウンドの外国人の姿も目に付く。信仰心のない者でも、テーマパーク的な楽しさがある場所なのだと思う。遠足のときよりも、格段に進化している。

そのあと、平山郁夫美術館に行った。耕三寺のすぐ近くにある。館内にあるティールラウンジで休息、瀬戸内レモンのレモンスカッシュを堪能した。生誕地の美術館なので、画伯が子供の頃の絵も多数、展示されている。大人びていて、とてつもなくうまい。しかし、その絵が心に響くような絵になるまでには、とてつもなく長い鍛錬の日々があったのだろう。各時代の絵を鑑賞していてそう思った。

平山郁夫は中学三年生のときに広島市内で被爆。色紙に墨一色で原爆のキノコ雲を描いた絵が展示されていたのが、とりわけ印象に残った。





どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「阿修羅像」の真実

長部日出雄 著 文春新書

興福寺の八部衆の阿修羅像、国宝に指定されている。3つの顔を持つが、正面の愁いを帯びた端正な顔に惹かれる人が多い。少年？いや少女だろう？ そのモデルを考察する内容。長部さんの名前を読み始めたが、やっぱりおもしろい。解説が的確でわかりやすいのである。

東大寺の大仏建立をメインに、仏教伝来の歴史を三蔵法師玄奘の天竺への旅から紐解いて、唐に渡って玄奘の弟子となった日本の僧、道昭、その弟子の行基と続く系譜はダイナミック。大衆救済のために仏教に帰依した聖武天皇、光明皇后の想いの大きさが、大仏の姿なのである。



「銀河鉄道の父」

門井慶喜 著 講談社

「銀河鉄道の夜」を書いた宮沢賢治を、父親の視点で描いた物語。賢治の父親、政次郎は学業優秀で中学への進学を望んだが、家業の質屋に学問は必要ないと父親に言われて断念。自分の息子には存分に勉強させてやりたい——、盛岡中学を卒業した賢治だったが、質屋の店番を一度しただけで懲りてしまい、迷走が始まる。



盛岡高等農林学校に進学&卒業したが、とくに目標があるわけではなく、ふらふらしている。金持ちの家のボンボンで、社会人としてはデクノボーなのである。そんな賢治を見捨てることなく庇護した政次郎が、文豪・宮沢賢治を誕生させた。第158回直木賞受賞作。

「ギリシャ神話を知っていますか」

阿刀田高 著 新潮文庫

ギリシャ神話に由来する物語は数多い。映画や小説の断片的な知識が脳内に散乱していたが、本書を読んで大まかな相関図がイメージできた。それにしても、神々の言動は傲慢で矛盾に満ちている。最たるものが全知全能の神ゼウスで、この浮気者の男神は、女神や人間の女、ニンフと情交して、多くの子供を誕生させている。その一人が、荒くれ者の英雄ヘラクレス。



日本の神話との類似性も興味深い。スサノオとヘラクレスはイメージが重複する。オリペウス（オルフェ）が死した愛妻を求めて冥界を探訪する物語は、イザナギが黄泉の国に妻のイザナミを訪ねるシーンを彷彿させる。

どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣（店内専用通貨）であれば半額、現金であれば3割で買い戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

ハロー注意報②⑩

——進駐軍がいた町のはなし

海行き温泉行きの夏休み

松岡初枝

七月の二十日が過ぎると学校も夏休みに入る。八月の七夕、お盆などの行事があるので、店は忙しい。そこで毎年七月中の三、四日は海水浴に行った。子供達を連れて行くのはいつも祖母で、彼女は海が大好きで水泳が得意だった。祖母の主な仕事は着付けなので、夏場は暇だった。父の妹が江ノ島近くに住んでいたこともあって、夏休みに入ると直ぐに出掛けた。江ノ電の腰越駅近くの叔母の家には歳が近い従姉妹がいるの

で、お互いに会うのを楽しみにしていた。

当時の片瀬海岸は今の海水浴場のように混雑していなくて、海の家も二、三軒ほどしか無く、皆顔見知りなので、麦茶などはいつも無料にしてくれた。海は八月になると土用波やクラゲも増える。七月は比較的完全に遊べる訳だ。毎日朝から海に行き、午後は昼寝、夕方になると叔母や叔父が沢山の魚や貝で持て成してくる。何しろ腰越漁港が目の前なので、山盛りの海



伊香保温泉にて

幸が夕食に出される。「キヨ子もミツ子も毎日食べてるんだから、ハツちゃん達沢山食べてよー」「おじちゃん、おばちゃんいただきますー」「叔父ちゃんが市場で買って来るんだからおいしいよ」。

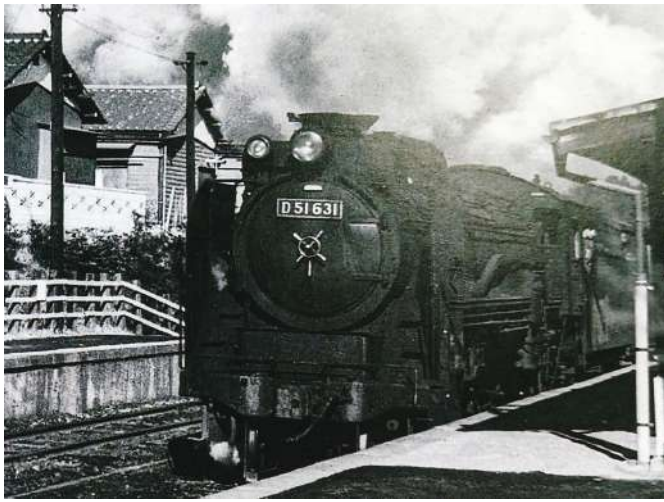
刺身が好物の祖母は「こんな贅沢させて貰って、セイさんありがとね」「留守番の皆には帰りにサザエでも持たせませよ」。こんな夢のような夕食は埼玉では無理というもので、やっぱり海の近くはいいなあと思っただものだ。

海から帰ると大急ぎで宿題を片づけなくてはならない。暑い中で宿題に向き合うのは大変だが、八月は七夕がある。従兄妹達も泊りがけで来る。そして何と言っても盆休みの温泉旅行が待っている。正確には盆が終わった後でお店のおねえさん達との慰安旅行も兼ねての旅行が、我が家の夏の定例行事となっていた。昭和二十、三十年代の旅行というのは、今と異なって交通インフラがまだ整っていないかったもので、ある意味難行苦行でもあった。

埼玉から群馬県上毛(じょうもう)方面の温泉地に行く。下の弟と父母は留守番となるが、若夫婦をゆつくり休ませたいとの思いもあったらしい。当日は早朝タクシーで東飯能(はんのう)駅へ。八高線に乗って高崎まで行くが、当時長距離線はまだSしが主流だった。「ピーポー！ シュッシュッ」と音をたてて列車が来ると、「さあ行くぞー」とワクワク

して硬い座席に腰掛ける。窓の外の景色を見ているだけで心が躍る。弟が「ジイちゃん、一番前まで行っていい？」「ジイちゃんも行くぞー」。私も一緒に先頭客車まで行くと、黒い機関車が先の方に見える。機関手も助手も黒い帽子を冠り、アゴ紐を掛けていた。石炭をくべる助手の顔も黒ずみ、すべてが黒一色だ。釜の蓋が開くと、中が真っ赤に燃えていた。

その年は草津温泉に行くので、宿は湯畑前の大飯屋に予約してある。高崎へ着くと信越本線に乗り換えて横川まで行く。横川から軽井沢入りして、そこから草津を目指す。横川からはいいよいよ碓井(うすい)峠越えをするために横川駅でSLを二重連にするために二十分程停車するが、そこで横川名物「荻野屋の峠の釜めし」やお茶を買う。おじさんが大きな箱に重い釜めしやお茶を入れたのを首から掛け「カマーメシ！ 峠のカマーメシ、お茶もどうぞ」と売りに来る。お客はこの釜めしが目当てで列車から降りて買い求めてゆく。釜めしの釜は益子焼き製、お茶も焼き物の器なので、弁当の売り手さんはかなり重い荷物で大変そうだ。「荻野屋さん、釜めしとお茶ください」



東飯能駅に入って来たSL、D51



草軽電鉄を走っていた電車の模型

なー！」店のおねいさんも含めて八人の旅なので、皆手分けで車内に持ってゆく。いきなり八人前が売れたおじさんはニコニコ顔だ。祖父と私と弟はSLを二重連にする作業を見るのだが、赤と白の旗を持った駅員の指示で、大きな二両の機関車が近づき「ガッシャン」と連結する時には、見ていたお客達もその圧巻の迫力に、思わず拍手してしまうのだ。

峠越えのSL二重連が走り出すが、碓氷峠は事の外難所なので、線路のまん中に『アプト式』という三本目

の線路があり、カムを噛ませて「ガッ！ガッ！」とゆっくり登ってゆく。途中には谷越えの高いめがね橋やトンネルもあってスリル満点だ。やっとな軽井沢に着くと、そこから『草軽電鉄』に乗り換える。草軽電鉄はとて小ぶりの電車で、電気機関車と二両の客車。この電車のオンボロぶりも変に楽しかった。雨が降ると雨漏りするし、スピードはマラソン選手の走りと同じぐらいで、時々小動物も線路に出没する。今は信越線横川駅も草軽電鉄も無くなってし

まったが、小学生だった私がしっかり覚えている程の楽しさやワクワク感のある旅程だった。

列車内で食べた釜めしの味も忘れられない。上に乗った杏のオレンジ色、椎茸の黒、うずら玉子の白、見た目も美しく美味だった。やっとな津の温泉街に着く頃にはもう午後二時すぎ、湯畑の硫黄の臭いが鼻を突く。部屋に入るとラッパの音がした。湯畑近くの『時間湯』が始まりを報らせるラッパ音で、湯治する為の自炊宿に泊まっている人達が三三五五と時間湯へ入って湯揉みをする。

「草津よいとこ一度はおいでー」おなじみの唄と共に湯をさます。大阪屋の部屋の窓からこの様子が見えるが、湯番のおじさんがストップウォッチできちんと監理しての湯治なのだ。

私達も宿の湯に入るが、時間湯の生一本の湯と異って少し真水を混ぜてあるらしい。それでも強い酸性の湯はピリピリとした。やっとな夕食、当時は決して豪華な食事とは言えないが、皆で食べる山菜や川魚がおいしかった。店のおねえさん達は別の部屋へ引き

揚げた頃、宿の下の道路から「新内（しんない）流し」の三味線の音が流れて来た。「お二人さん、上がっておいでよ」新内好きの祖父母が窓から呼ぶと、流しの二人連れが部屋に来る。部屋にはもう布団が敷かれていたが、二つ折りにして寄りかかって曲を聴く。『鸞鳥（らんちょう）』や『明鳥（あけがらす）』を演奏した後祖父が「一杯どうぞ？」と言うとお流れ頂戴します」と一緒に呑みはじめる。「お二人の芸は江戸前がいいねえ。どうして草津へ？」「戦時疎開で来ましてね。戦前は赤坂で流してたんです」。御夫婦だという二人は、黒い緋の着流しが粋で「こんな田舎じゃ勿体ないねえ」と祖母が言うところ「時世でさあねえ」。二人は祝儀を受け取って帰って行った。「草津に来たら呼びますね」と言ったが、二度と会うことは無かった。

草津白根山に登ったり、西（さい）の河原へ行ったり、楽しくも大変な温泉旅行だったが、毎年のように行った水上（みなかみ）や四万（しま）温泉も忘れられない思い出が一杯だ。今は高速道路や鉄道などが整備されて便利になったが、昭和二十〜三十年代の旅だからこそ得難い思い出は決して尽きないのだ。

「コーヘイか？」

いきなり声をかけられて、心臓が止まるほど驚いた。黒い影に向かつて懐中電灯を向けると、髭面の中年男の顔が現れた。相手も懐中電灯を点灯して、互いの姿を確認した。

「ケガをしているのか？」

右手のこぶしに巻いたタオルが血で染まっていた。怒りにまかせて窓ガラスを叩き割った代償である。

「これで照らしておいてくれ」

大型の懐中電灯を手渡された。光力がすごい。背負ったザックから大振りな水筒を取り出すと、傷口を水で洗った。

「けっこう深いな。本当は縫った方が治りが早いんだが……」

そう言いながらも、大きめの脱脂綿にチューブ入りの軟膏をたっぷり塗って傷口を塞ぎ、包帯を巻いてくれた。

「用心のために、これをのんでおけ。化膿予防の抗生剤と痛み止めだ」

手渡されたカプセルを2つ、水筒のコップの水で飲み込んだ。

「お医者さんですか？」

「とんでもないとかぶりを振った。」

「ただの衛生管理者だよ」

「えいせいかなり……」

「船の中の衛生管理、つまり乗組員

たちの健康管理をするのが仕事だ。

三千トン以上の船舶に義務付けられている。乗組員が百人を超えると、本物のドクターが乗船する必要がある。しがたない代役だが、海の上ではおれがドクターだ。注射もするし、こうしたケガなら簡単な手術もする」

ニヤリと笑った。

「さて、お互いに事情がありそうだな。コーヒーを付き合ってくれないか」

国兼池

現代御伽草子 ⑩4

あきふゆひこ
亜木冬彦

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

林の方に案内された。蚊取り線香

を焚いている臭いがした。大きな木の根元にザックを下して、缶入りの

固形燃料に火を点けた。水を入れた

アルマイトのコップを火にかぎ

してお湯を沸かし、スティック状の

インスタントコーヒーを二本入れて

スプーンでかき混ぜる。その半分を

コップに注いだ。

「乾杯！」

コップを掲げて笑った。わたしもコップを口に運んだ。

自分から話すことはあまりなかった。学校に行くと説教する父親に鬱屈を爆発させて、家を飛び出した。満月の夜だった。人影を避け、月明かりの夜道をとぼとぼ歩いているうちに、この池の畔（ほとり）に来て

しまった。昼間は目立つので、夜に散歩するのが日課のようになってい

原の日赤病院だ。当時は、広島第一

陸軍病院庄原分院という名前だった。

もつとも、おれたちが収容されたのは、隣の国民学校の教室だった。板の間にむしろを敷いて横になった。肩口の火傷が腐って蛆がわいてな。国防婦人会のおばちゃんに箸で取ってもらうんだが、切りがない。糞や小便を垂れ流しながら、ど

んどん死んで行ったよ……」

コーヒーが飲めなくなって、コップを地面に置いた。

「それで敗戦だ。おれたちは天皇陛下の兵士ではなくなった。だから、自分で歩ける者は病院から出て行ってくれという。腹を立てたのはコーヘイだ。学生の身分を捨てて志願したんだからな。放射能に焼かれてポロポロになった身体だけが残った……」

タバコを取り出して火を点けて、空になったコップを固形燃料の缶にかぶせて火を消した。

「八百比丘尼という伝説がある。人

魚の肉を食べて、不老不死になった

という女の話だ。八百歳まで生きた

尼さんだから、八百比丘尼。コーヘ

イが、人魚の肉を食べれば元気に

なって長生きできると言い出したんだ」



「人魚……ですか？」

「そんなもん、どこで手に入れるんだ、て訊いたら、この池の伝説を持ち出した。氾濫を繰り返す巨大な溜池の補修工事のときに、人柱となつて身を捧げた美人姉妹の話だ。お国は二十一歳、お兼は十九歳、赤と黒の二匹の鯉に化身して、国兼池と呼ばれるようになった池の中を、今でも仲良く泳いでいるという。その鯉を釣りあげて、食べようというんだ。人魚よりも霊験があるはずだという」

タバコを一服吸った。

「頭がおかしくなっていたんだらう

な。いつも腹を空かせていたんで、

大きな魚を食べると想像しただけで夢中になった。敗戦のショックで、倫理にもとることをしたいという投げやりな気持ちもあったと思う」

しばらくたばこを燻らせていた。

「食べたんですか？」

我慢できずに尋ねた。しばし間が空いて、静かにかぶりを振った。

「小魚一匹、釣れなかつたよ」

別れる時に、再会を約したという。

「長生きしましょう。これからは、自分のために生きましょう。それで、おれが五十歳のじじいになれたら、また会ってください」。

その約束の日が、今夜なのである。八月十五日、終戦記念日——。

八月十五日、終戦記念日——。

「やっぱり外は暑いな」

山本文吾さんが不平を言って、缶コーヒーを口に運んだ。

「来なければいいじゃないですか」

「たまには、肺の中の空気を入れ替える必要がある。古本の湿った空気がばかり吸っていたら、肺に黴が生えてしまう」

「備北丘陵公園」の「ふらり」に来ていた。北入口ゲートから入場して、無料で利用できるエリアである。木製の棚に蔓性の植物を這わせて日陰

として、ベンチを設けてある。

「まるでリゾート地だな。昔は暗くて陰気な場所だった。泉鏡花の『夜叉ヶ池』を連想したものだ。もっとも、映画しか観ていないがな。坂東玉三郎がきれいだった」

絨毯のように美しく整備された芝生の先に、国兼池がある。その畔で、衛生管理者だという人物とコーヒーを飲んだ場所である。そのあとも、何度か足を運んだが、再会することはなかった。あの夜、コーヘイさんと会うことができたのだろうか。国兼池が国定公園に組み込まれてからは、足が遠のいてしまった。

人影が視界をよぎった。アツと声を上げて立ち上がった。声をかけようにも、名前を知らない。ザックを背負った人物を追い越して、チラリと顔を確認すると、髭面だがまったく別人だった。もう半世紀も前のことなのだ。生きていたら百歳を超えている。

「すいません、人違いでした。そろそろ引き上げますか」

文吾さんに声をかけた。昼休みの終了時間が迫っている。どら書房は終戦記念日でも、定休日でなければもちろん“営業中”である。

まつの古本屋さん どら書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・ 無料本、百円本、50円本などのコーナー。
 - ・ 地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
- ※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
 - 定休日：毎週日・月・火曜日（5月より日曜日も休みます）
 - TEL: 090(9913)3052
 - 営業時間 9:30～18:30（昼食休憩 12:00～12:30）
- ※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

「旧暦」のカレンダーを見る

古川行洋

第四部 祭事を見る

十月十九日 べったら市

東京日本橋大伝馬町から小伝馬をつなぐ通りで開かれる大根の浅漬けの市。十月十九日、二十日の二日間行なわれる。くされ市・浅漬け市ともいわれている。

この市はもともと、二十日の恵比須講に用いる品物・道具や浅漬けを売る恵比須市であったが、大根の浅漬けが飛ぶように売れたことからいつしか「べったら市」と呼ばれるようになった。

恵比須市でこの浅漬けを買った人は、縄で縛ったまま持ち帰っていたので、人込みの中では弾みで行き違う人の服などに浅漬けの麴が付くことがあった。そこで「べったりついても知らないよー」と掛け声を発しながら道を開けてくれるように頼んだという。べったらの名は、ここに由来するといわれている。

十月廿日 恵比須講

主に商家などが商売繁盛を祝って、

福徳の神である恵比須様を祭る法会。地方により、旧暦十月廿日、十一月二十日、正月十日、正月二十日と異なり、一定ではない。関東では十月二十日の二十をとって、「二十日えびす」といい、関西では正月十日にこれをこなうことから、「十日えびす」という。

由来は、旧暦十月は神無月といって、日本中の神様が出雲大社に出掛けていて、恵比須様だけが留守を守るため居残るので、気の毒な恵比須様を特別なお祭りによってお慰めしよう、始まったといわれている。もともとは、漁師たちに厚く信仰されていたが、商人や漁師ばかりでなく、農家の人びとにとっても恵比須様は家内安全や家運隆盛の福をもたらししてくれる、大切な神様になっていったのである。そして、商人文化が盛んな関西地方では「えべっさん」と呼んで親しまれ、現在まで続いているのである。

十一月八日 ふいご祭

伏見稻荷神社の例祭、「伏見御火焚祭り」のことである。稻荷神社は鍛冶（かじ）の守護神とされ、特に鍛冶屋さん・鋳物師など、火を使う職業の人々の信仰を集めている。

御火焚きの次第は、松薪（まつたきぎ）を井げたに積んで中央に笹を立て、神楽・祝詞を奏して笹に点火し、燃え上がったところへ神酒を注いで、爆竹を鳴らすというものである。

伏見御火焚祭りは古くから行われてきたが、天文十二（一五四三）年以来、幕末まで久しく中断されていたのを、文久三（一八六三）年に宮中の配慮により再興された。明治時代になって再び中断していたが、近年になって復活した。

十一月十五日 七五三

七五三という数字は、奇数を縁起のよい数と考える中国思想の影響からきており、男女三歳で髪置き祝い、男児五歳で袴着の祝い、女児七歳で帯解きの祝いが行われた。

そして、中世以来、日本では赤ん坊は男女とも、たいてい頭を青くそり、三つの誕生日または十一月十五日になって初めて髪を伸ばす風があった。もう赤ん坊ではないという意味で、これを髪置きと呼んだ。髪

置きは、白髪をかぶせ頂きに白粉をつけ、くしで左右にすいて祝う行事である。

江戸時代になると、五歳になった男児はその年の十一月十五日、袴着といつて、初めて袴をはいた。

女兒は七歳になると、ひもつきの着物にかわって、帯をしめた。これを紐解き・帯解きなどといった。こうしてはじめて、子供は一人前の人間として社会に認められたのである。

十一月十五日に祝うことになったのは、十一月は秋の実りを産土（うぶすな）の神に感謝する月であり、満月の十五日に産土神・氏神に収穫の感謝かたがた、子供の成長を感謝し、祈ったのがこの行事である。

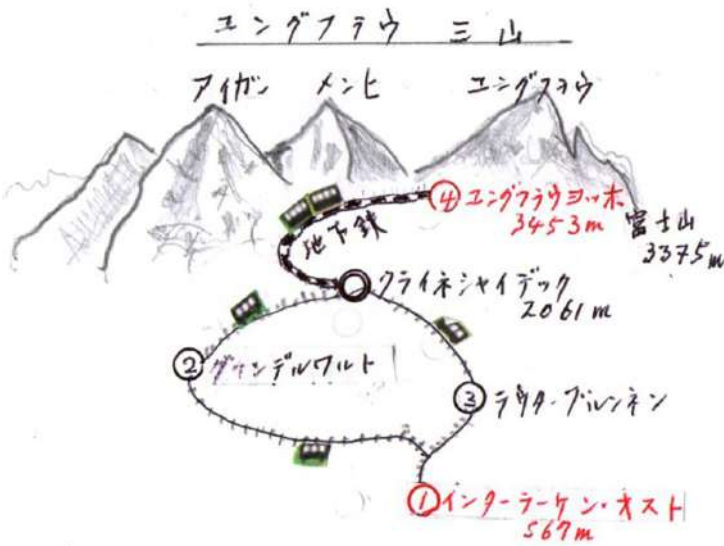


ヨーロッパ23日間「卒業旅行」(11)

マック☆ヤマザキ

2月28日水曜日、ミュンヘンからイシュバンシュタインのインターラーケン(スイス)。ロマンチック街道の南端にある通称「白雪姫城」はドイツ語ではちよつとややこしく、「ノイシュバンシュタイン」と発音、フュッセンという町にある。20世紀

に、ウォルト・ディズニーがドイツのインスピレーションとして使用、世界的に有名になった。この城の見学は英語兼ドイツ語のガイドさんが付きそい、日本人のグループが20人くらいであれば要所、



は。バスポートのチェックはない。スイスは世界の自然公園と呼ばれるだけあって、その美しさを保つために、国民を挙げての清掃活動が目につく。店の前で掃きそうじをされているそばで、吸っていたたばこをポイ捨てをする学生たちに、小声で注意した。吸殻を拾わせて「スイマセン」と謝らせた。

国民のすべてが観光産業に携わっている。そして、外貨の獲得に精を出している。スイスの国は、ドイツ、フランス、イタリア、オーストリア、リヒテンシュタインの5か国に囲まれていて、国民は、英語、イタリア語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などを流ちょうに使いこなすのだ。

インターラーケンでのホテルは、インターラーケン東(オスト)駅の前にあったホテル・ベルナーホフ。こじんまりとしたホテルで、オーナー夫妻が出迎えてくれた。後でわかったのだが、従業員は夜勤のおじいちゃんがいるだけで、重い荷物が多い時などは隣のレストランの従業員などに応援を頼んでいたようだった。

エレベーターが一基しかなかったので、ドイツ・ローテンブルクで実践した学生たちによる人海戦術をこころみた。最初に、各自に部屋の鍵

を渡し、その部屋番号をホテル用の新しいタグ(荷札)に記入させた。グループを3班に分け、荷物をエレベーターに搬入する班、それを自分たちが宿泊する3階へエレベーターで運ぶ班、そして3階で待機して荷物を部屋の前まで運ぶ班。この様子を眺めていたホテル・オーナー夫妻が、全員のホテル・キーの管理を私に一任してくれた。ホテル・オーナーから信用され、学生達にとって居心地が良くなれば、私の仕事は半分以上成功なのである。

自分のスーツケースを部屋に持ち込むや、すぐにインターラーケン・オスト駅にジョッキング、必要な情報を収集した。スキー情報は、①インターラーケン・オスト駅からの割引鉄道運賃で②グリンデルワルト、③ラウターブルンネン地区への往復運賃とスキーリフト乗り放題の一日クーポンで46スイスフラン(約4200円)、レンタルシューズは10スイスフラン(約900円)。④ユングフラウ・ヨッホへの往復運賃は早起きしてオスト(東)駅発午前7時28分を出発して116スイスフラン(約10700円)。お得な料金プランをロビーに掲示した(手作り鉄道路線図参照)。

要所で日本語の説明のテープを流してくれるというシステムもあったが、ここは私の出番。日本での観光地では大声で案内するのが当たり前のようにだが、この城での説明は高い天井からのエコーを考慮して、品位のある説明を意識して、声の調子を落としてみた。入場者の数はその都度制限されるので、静寂は保たれている。城の外観に相応しい厳(おごそ)かで静かな案内が出来たと自負している。

それから、我々のバスは一路ドイツとスイスの国境を指した。バスでの国境越えに

どらくる俳壇&歌壇

※参加を歓迎します。

さらさらとお料理ソルト夏座敷

近藤 昌平

補聴器に夏夕闇の風の音

富久光

久方に旅に出かけるサングラス

片岡 正人

風知草サラリと風を受け流し

隆愚

父の日や被爆のことは言はぬまま

大槇 三代子

短夜や昔日思いジャズを聞く

寺内 龍二

炎天やへチマのようなキュウリ喰う

赤川 冬人

地獄絵の餓鬼の恐さもさながらに

松岡 初枝

この世にも居る餓鬼や外道ら

投稿&寄稿

候のことば

「灯笼流し」

隆愚

お盆の時期に、死者の魂を弔うために灯笼を海や川に流す行事です。お盆の精霊（しょうろう）送り（先祖の霊をあゝの世へ送り届ける行事）

海外でも行われます。

ご先祖様の霊だけでなく、戦没者や水難事故で亡くなった人の霊の慰めや平和の願いを込めたり、故人の冥福を祈り供養するために行われます。

おもぎしのほのかに灯笼流しけり

飯田蛇笏（だこつ）

「キュウリ」

赤川仁洋

どら書房の店頭に、野菜の無人販売コーナーがある。毎週水曜日（今は土曜日も）の朝に、地元の採れたて野菜が並ぶ。キュウリやナス、ピーマンにシントウ、ゴーヤやズッキーニ等々の夏野菜。最初のうちは物珍しさもあってすぐに無くなったが、あちこちで大量に出回るようになると、売れ残りも出るようになる。

とくにキュウリはもらいものも多いうので、敬遠されてしまう。その残ったキュウリを、ありがたく自分で購入させていただく。一袋百円、まるでへチマのように丸々とふとったキュウリが3本入りで百円なのである。

ウリ科のキュウリは、昔は大きく熟れてから食べていたという。熟れると黄色くなるから「黄ウリ」と

いう説が有力だ。黄ウリを一度、食べてみたいものだ。

さすがに皮が少し固いので、ピーラーで大雑把に皮むきをして、横に四等分、縦にも四等分してスティック状にする。味噌やマヨネーズをつけて、梅干し入りの湯漬けや冷や麦と一緒に食べるのだが、夏バテして食欲がなくても食が進む。一度、スーパーで買ったキュウリを同じようにして食べたのだが、苦くて味が違うのだ。

ラッキョウ酢に漬けて、ピクルスのようにして食べてもおいしい。酷暑を乗り切る心強い味方である。



どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して
いるので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

「庄原を想う会」主催の交流会

「気軽に庄原について話し、仲間の輪を広げよう」

日時：8月30日(土)9時30分～11時30分

テーマ：「日頃の災害対策について
～みんなで考えていきましょう～」

講師：池田範行氏(防災士)

場所：交通交流施設1(JR庄原駅隣接)

参加費：500円

(学生200円、お茶菓子代込み)

申込み&問合せ：080-3631-9125(やない)



徳岡政暁 陶芸作品コーナー

陶芸家、画家(徳岡佛性坊)として多彩な
活動をしてきた故・徳岡政暁氏の陶芸作品
の展示販売を、どらくろあの一隅でしてい
ます。

茶碗や花器、陶板や料理皿、多様な作品を
展示しています。あなたのお気に入りの逸
品が見つかるかもしれません。

※天井が低いので頭上注意!

どらくろあ 無人野菜販売コーナー

新鮮で安全な野菜を店頭で販売(値札のないものは百円均一)。
毎週水曜日の朝に入荷予定。

●黒ニンニク好評販売中!●

(青森産ニンニクホホワイト六片使用)

甘みと適度な酸味、ニンニク臭さはありません。
ポリフェノールを含み、抗酸化作用、滋養強壮などの
効果が期待できます。

(80g入り500円)

※増量ジャンボニンニクもあります。

「ぐんぐん伸びよう会」

(教室：庄原市川西町241 連絡先：080-3631-9125 やないたえこ)

幼児教育の必要性についてのQ & A

Q: 集中力も幼児期の育てられ方で決まってくるのか?

A: 子どもが自分の意志で遊ぶおもちゃを選んだり、大人がゆったりした気持ちで子
どもの行動を見守ったりすることで、自主性が育ち、集中力がついてきます。当教室では、幼児に単に「か
ず」や「ことば」の世界を広げるだけではなく、お子さんの能力のちょうどのところを繰り返し学習すること
で「学習意欲」や「集中力」を育てています。



無料体験学習受付中!!

発行：どらくろあ
〒727-0012
庄原市中本町2-1-10
☎090(9913)3052(赤川)
e-mail: touzin@nifty.com

誌面デザイン: ROUTE183
協賛: 九日市愛好会

編集後記

◇先月号の「しょうばら九日市」のTOPICS、「庄原特別支援学級」は「庄原特別支援学校」の間違い。初期配布のものは未訂正、申し訳ございませんでした。

◇先月号のエッセイで書いたツバメの巣、雛が3羽生まれて子育て奮闘中。猛暑で心配ですが、無事巣立ってくれることを願っています。

◇暑くて外出するのも辛いので、人通りも少なく来客もまばら。8月は木次線の取材に行く予定だったので、炎天下の散策は少しめそうにもありません。他の題材を捜す必要がありそうです。

◇どこか避暑地へ。思い浮かぶのはネットカフェだけ(苦笑)

第286回

くんちいち

ひょうばあ九日市

毎月九日に開催されている街角市場です。発祥は天正年間（1573～1591）、織田信長が安土城を築いたり、豊臣秀吉が大阪城を築いたころ、物々交換の市（いち）として始まりました。その歴史ある市が2001年に復活、地元の出店はもちろん、近隣他県からの出店＆名産品で賑わっています。



**夏休み折り紙教室&
絵本読み聞かせ会**
場所は楽笑座、涼しい部屋
で夏の思い出作りを！

8月9日(土)

9:00～12:00

※夏の暑さ対策で営業時間短縮！

TOPICS(開催場所は裏面の地図参照)

★市民ギャラリー「アート多愛夢」
8月8日(金)～10日(日) 10時～15時
「手描き友禅作品展」

★HONMACHI STAND→コーヒー100円引き

★カフェクラウド タピオカドリンク 100円引き

★どら書房、休憩室(漫画ルーム)あります！

★夏休み折り紙教室&絵本読み聞かせ会開催
場所：楽笑座(無料、当日参加OK、10時～11時)

★坐って休める「お休み処」でのんびり散策を！
テント、机、椅子準備。場所はまちなか広場予定

★あなたも自分のお店を出してみませんか？(出店者募集中！)

*出店申込みは、【毎月20日締切】 コンパネ1枚スペース1,200円～
九日市愛好会事務局 TEL/FAX(0824)72-8285
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10(楽笑座内)

【ホームページ】
<http://www.kunchi-ichi.jp>

